「知を愛し、世界へ。」をスローガンに自立・自走型の人材を育んで地域社会と世界の繁栄に貢献する

わが国の海外高等教育機関として最も古い歴史を持つ東亜同文書院を起源とする愛知大学は、1946年、中部地区唯一の旧制の法文系大学として誕生しました。それ以来、「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」を建学の精神として、「知を愛し、世界へ。」のスローガンの下、多様な人材を社会に送り出しています。

2026年の創立80周年に向け、豊橋キャンパスのリニューアルを推進中で、歴史と伝統に向き合い、未来につなぐサスティナブルキャンパスの実現を目指しています。また、2025年度までの大学の進むべき方向性を示したロードマップ「第5次基本構想」に基づき、たゆまぬ改革を実施しており、自立・自走型の人材を育んでいます。

川井伸一（かわい しんいち）学長

1975年東京大学教養学部卒業。82年同大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は国際経営学、比較経営論。財団法人日本国際問題研究所研究員、在中国日本国大使館専門調査員などを経て、92年愛知大学経営学部助教授。95年経営学部教授、2009年経営学部長、11年副学長、15年より現職。

愛知大学

〒461-8641　愛知県名古屋市東区筒井二丁目10-31　企画部入試課　TEL 052-937-8112　https://www.aichi-u.ac.jp/

建学の精神を受け継ぎ豊橋キャンパスの施設整備

「知を愛する者が相集う」ことから命名された愛知大学は、第二次世界大戦終了後の1946年11月、東亜同文書院最後の学長本間喜一らの尽力により、全国で49番目の旧制大学として愛知県豊橋市に開設されました。「知を愛し、世界へ。」のスローガンの下、建学の精神を受け継ぎ、地域や国際社会に有意な人材を多数輩出しています。

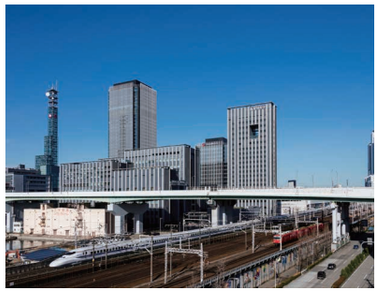
川井伸一学長は「愛知大学は創立以来、地方社会における学問・文化の振興と貢献を謳っています。今日、地方創生が大きな政策課題となる中で、地域社会への貢献という建学の精神は、今まさに今日的な課題となっているのです。同様に国際的教養と視野をもった人材の育成という使命も、急速にグローバル化が進む現代にあってますます重要になっています。本学は2026年に創立80周年を迎えますが、そうした観点から改めて本学の歴史を振り返ってみたいと思います」と話します。

その80周年に向け、愛知大学は豊橋キャンパスの施設整備事業(1)を推進しています。豊橋キャンパスは、1908年に設置された旧陸軍第15師団の跡地に作られたもので、司令部は築115年の今も、愛知大学記念館（国の登録有形文化財）として現存しています。このため、「歴史と伝統に向き合い、未来につなぐサスティナブルキャンパスの実現を目指して、学生が互いに刺激し合え、多様性を共感できる心地よいキャンパス」をコンセプトに、リニューアルを行っています。

キャンパスの中心に建てられる約1万2000㎡、4階建ての新棟は、教室のほか、蔵書数100万冊を閲覧することができる図書館、情報メディアセンター、Language Center、コミュニケーションラウンジなどから構成されるアカデミック棟で、連絡通路で他の建物にアクセスできるようになっています。「周辺の住民や市民に開放するなど、社会に開かれたキャンパスを目指したい」と川井学長は構想を語ります。

地域や世界と連携した教育と研究を展開

愛知大学は、豊橋キャンパスに文、地域政策学部および短期大学部、車道キャンパス（名古屋市東区）に法科大学院、名古屋駅南の「ささしまライブ」に位置する名古屋キャンパスには社会科学系3学部（法、経済、経営学部）、国際系2学部（現代中国、国際コミュニケーション学部）を設置しています。理論を学ぶだけではなく、多くの学部で地域や海外に出て調査・研究や体験的学修を行っているのが特色です。



名古屋キャンパス

例えば、地域政策学部では「学生地域貢献事業」を2011年の学部開設時から継続しています。商品開発、中山間地活性化、多世代交流など多岐にわたっており、これまでに延べ2000人を超える学生が参加。現代中国学部では、2年次の必修として4カ月間、中国、台湾、マレーシアで学ぶ「現地プログラム」を実施しています。また、法学部では学生主体で裁判員模擬裁判を行い、裁判員制度の意義や重みを理解するようにしています。

さらに、2021年度には法学部に法科大学院連携コースを新設しました。3年で法学部を卒業し、2年制の法科大学院既習コースへ進学するというもので、入学から最短5年で司法試験に合格できるようになりました。

建学の精神を社会の中で体現することを目指すものとして、入学したすべての学生が共通で履修する共通教育科目も充実しています。「社会生活のリテラシーと一般常識をバランスよく身につける」「グローバル化する社会の中で活かせる外国語能力を養成する」「ICT化する社会に対応できる知識と技術を習得する」という3つが特長で、外国語、自然、人文、数理・情報、社会、体育、総合の7分野からなっています。

豊橋キャンパス新棟（完成予想図）

一方、愛知大学ならではの特色ある研究も活発に行われています。「東亜同文書院大学記念センター(2)」や「三遠南信地域連携研究センター」などの研究機関が地域や世界と密着した研究活動を展開しています。

日本は、人口減少とそれに伴う経済縮小という課題に直面しており、三遠南信地域連携研究センターでは地域と地域の境界を「越境」した地域研究を推進。さらに、名古屋キャンパスでは研究拠点「アシタシア(3)」を立ち上げ、日本社会の明日をつくる試みに取り組んでいます。

また、「国際中国学研究センター（ICCS）」では、日本や中国の研究などで著名なアメリカの社会学者エズラ・ヴォーゲルが東アジアで行った業績についての研究を始めました。

充実のキャリアサポートで地域を担う人材を輩出

愛知大学では、国家公務員一般職（行政職）で、2022年度は70人が合格。東海・北陸地区の私立大学では2位になりました。18年度から21年度は連続して1位（愛知大学調べ）になるなど、地域を担う公務員人材を多数輩出しています。

学生のキャリアサポートには定評があり、「愛知大学・包括的キャリア形成支援システム（CISA）」を全学で展開しています。これは学士課程教育と学生生活・課外活動、キャリアデザイン・就職支援活動を相互に連携させ、社会人スキルを備えた「自立・自走型人材」の育成を目指すものです。

キャリア支援センターでは、「キャリアフィールド」「Learning＋（ラーニングプラス）」「Ai-CONNEX(4)」の3つをキーワードに、企業を目指す学生をサポート。このほか、公務員を目指すためのキャリア開発講座室や、教員を目指すための「教職課程センター」も整備しています。

また、今年1月にはイオンモール豊川と産学連携協力に関する覚書を締結したのをはじめ、多くの地方自治体や企業、団体と包括的な連携協定を結んでいるのも愛知大学ならではの強みです。

多彩な留学制度とボランティア活動

愛知大学は、海外協定校ネットワークを世界中に広げ、交換留学や認定留学、1セメスター認定留学プログラム、海外短期語学セミナーなど多様な留学制度を整えて、学生の希望にきめ細かく応えています。

留学を支援するための、さまざまな給付型奨学金制度や授業料減免制度も整えています。コロナ禍により海外留学は一時中断していましたが、2023年度以降は、本格的に再開しています。

建学の精神に則ったボランティア・社会貢献活動が活発なのも愛知大学の特色で、毎年夏恒例の「24時間テレビ・愛は地球を救う」（日本テレビ）にも愛知大学のボランティアグループが登場しています。

川井学長は、「ぜひ愛知大学で幅広く多様な学びを目指してほしい。そして、自ら考える力と学びの方法を身につけて自立自走型の人間になってもらいたいと思います。愛知大学は、学生が自由に主体的に学修できる環境が整っていますので、自ら成長しチャレンジしたいという人は、ぜひ来てください」と受験生にエールを送ってくれました。

(1) 豊橋キャンパス施設整備事業

1908年から脈々と引き継がれる豊橋キャンパスならではの整備事業を実現するため、「緑溢れる木の温もりのあるキャンパス」「アクティブな学び、交流の場をもつキャンパス」「広域に立地する建物間を繋ぎ、一体感をもつキャンパス」という3つの具体的なコンセプトを掲げ、新棟建設、既存建物の改修などのリニューアルを行っている。学生同士や教職員、地域の人々、学外者とのアクティブな学びや交流を通して、豊かなキャンパスライフを満喫できることが期待される。

(2) 東亜同文書院大学記念センター

1908年、陸軍第15師団司令部として造られた後、1946年から50年間、愛知大学本部として利用され、1998年に国の登録有形文化財に指定された愛知大学記念館の中にある。中国・上海に1901年から1945年まで存続した東亜同文書院の総合的研究を推進している。

(3) アシタシア

「明日のくに」の意味。「日本という縮減社会に持続性をもたらす」ためには、あらゆる「境界」を超えて繋がることが重要だというコンセプトのもと、さまざまなプロジェクトを展開。地域と地域の境界、異なるシステム同士の境界、行政と民間、異なる業種といった境界を互いに「越境」することで、新しい社会が始まることを提唱している。

(4)「キャリアフィールド」、「Learning＋（ラーニングプラス）」、「Ai-CONNEX」

「キャリアフィールド」は、新商品の開発提案から自治体の魅力創出プラン、OB、OGとの交流を通したキャリアビジョン育成まで、1、2年次から社会と関わり、「生きる・働く・学ぶ」を考えるプログラム。多様なフィールドに学部を問わず参加可能。

「Learning＋」（ラーニングプラス）は、さまざまな企業や官公庁と連携し、課題解決に取り組むプログラム。例えば、2022年度はカゴメと連携し、「新たな野菜接種プランの創出」をテーマに、チームによる調査、分析、企画立案に学生が挑戦した。これまでにもJALやJTB、アサヒビール、名古屋市などと協働で課題解決に当たった。

「Ai-CONNEX」は、在学中から卒業生や社会人とつながることを具現化したプラットフォーム。活躍する社会人や内定を獲得した学生による体験談を後輩に役立ててもらうことをバトンリレーのように受け継ぐ仕組みを構築している。

地域を担う公務員人材を多数輩出する愛知大学

2022年度 公務員合格実績 **453** 人（教員除く）※2023年4月時点 愛知大学調べ

国家公務員合格実績（国立大学法人等職員含） **179** 人

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
国家公務員一般職（行政職）合格者数	70人	59人	53人	80人	75人
東海・北陸地区私大ランキング	2位	1位	1位	1位	1位

※2023年4月時点 愛知大学調べ

地方公務員合格実績 **274** 人

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
都道府県・市町村職員採用数	146人	142人	125人	139人	106人
東海地区私大ランキング（大学独自累計）	1位	1位	1位	1位	1位

※出典：AERA MOOK進学 大学ランキング2020～2024（朝日新聞出版）
資格、採用試験ランキング（国家公務員、都道府県・市区町村職員）
公務員採用 都道府県・市区町村職員より